



1012号
2025年9月2日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等からこの
情報が閲覧可！



メールはこちら→

新執行部始動！



【25年度呉支部執行部】

郵政ユニオン呉支部 第14回呉支部定期大会

8月29日(金) 17時半から、ビューポートくれ中会議室に於いて、第14回呉支部定期大会を開催しました。今年度は連日の猛暑と、要員不足や減区の影響で疲労の蓄積がピークに達している状況の中、多くの組合員が参加しました。大会に先立ちまして、

昨年10月に亡くなられた組合員の山本和良さんへの黙祷を行いました。支部長の挨拶では猛暑や減区のことにも触れ、多くの社員が怒りを共有していることを再確認しました。議事についても多くの意見が出され、即答できるものについては執行委員から、次期体制

での問題については持ち越しということで各議案が採択されました。役員選挙も行われ、新執行部も誕生し、無事閉会しました。新年度も、労働者のミカタ郵政ユニオンをよろしくお願いします。

熱中症対策とは？

事業者は、労働安全衛生規則の改正(2025年9月1日施行)により、熱中症予防対策義務付けています。

そこで呉局ではファン付ベストを支給しあたたかも対策をしたかのように見せているが果たして十分な対策なのであるだろうか？ファン付ベストの効果については作業中の体温上昇をある程度抑える効果はあります。ただし「万能」ではなく、高温環境での長時間作業・休憩不足が続けば、熱中症リスクは依然として高いままです。

また、この猛暑の中でも減区と称して人員削減を行っています。人が減ること一人当たりの作業負担や労働時間が増え、作業密度が上がり、十分な休憩・休息や水分補給が取りにくくなります。結果的に、ファンベスト

の効果以上に熱中症リスクが高まる可能性があります。

熱中症対策は「装備」だけでなく、作業環境管理(気温・湿度・風通し)や作業管理(勤務時間・休憩時間・作業強度)も含めて総合的に実施する必要があります。厚生労働省のガイドラインでも「休憩・労働時間の調整」「労働強度の軽減」が重要な対策とされています。

ファンベストの支給は一步前進ですが、人員削減による作業負担増は熱中症リスクをむしろ高めるので、対策としては国が示す熱中症予防対策義務化に対し逆行している部分があります。減区の日を超勤している現状から見ても、物数減が必ずしも作業時間減ではないことを物語っています。皆さんもそう思いませんか？

2025年度呉支部執行委員

役職	氏名	職場
支部長	石野利昌	江田島
副支部長	藤原正	二集
書記長	古川茂	一集
執行委員	住吉博幸	一集
	筒井浄	一集
	服部浩	一集
	脇田誠	二集
	藤原幸夫	
	岩瀬清登	一集
会計監査	山田智	一集